

投資と要求に合ったITプロジェクトの見極め方 (4119115)

－企画・投資の価値を説明する全てのプロジェクトマネージャー 向け－

投資と要求に合ったITプロジェクトの見極め方

本コースの学習目標は、主に以下の4つを理解することです。

- 1) ビジネス戦略とIT戦略のリンケージの重要性を理解し、実現する具体的な手法を習得する。
- 2) IT投資をベースに、成功とはどのように測定するのか、具体的方法を習得する。
- 3) IT活動の成果を超えて、市場・社会への変化の影響（インパクト）の測定方法を習得する。
- 4) プロジェクトの優先順位付け、プロジェクト撤退の客観的な説明方法を学ぶ。
- 5) プロジェクトの上存在する上位フレームワークを理解し経営が要求する全体観を身に付ける。

開催日時	2020年2月19日(水) 10:00-18:00
カテゴリー	IS戦略策定・IS戦略評価・IS企画・IS企画評価 IS戦略実行マネジメント・プロジェクトマネジメント 専門スキル
講師	<p>中谷英雄 氏 (株式会社ピーエム・アラインメント 取締役 ビジネスコンサルティング部長) PMI認定PMP 2013年 米国PMI最優秀教育プロバイダー認定 スクラムアライアンス認定スクラムマスター (CSM) プロダクトオーナー (CSP0)</p> <p><略歴> 日本ユニシス (在籍7年) 三井住友信託銀行 (在籍13年) (株)ピーエム・アラインメント起業 (10年) ・コンサルティング・サービス (イノベーション、アジャイル、マネジメント) (企業、NP0向け) ・教育サービス (イノベーション、アジャイル、マネジメント) (企業、NP0向け)</p> <p><研究会活動> ・PM関連: PMIJ会員(アジャイルPM研究会会員、プログラムマネジメント研究会会員) ・イノベーション関連: JUAS (イノベーション研究会会員JIIP3) PMIJ会員(ソーシャルPM研究会) ・震災復興関連のNP0向けに、イノベーションプロセスの活用支援展開中</p> <p><PM関連書籍著> 監修 PMI 日本支部 「PMツールの実践的活用」プロジェクト 翻訳メンバー PMIプログラムマネジメント標準 第2版</p>
参加費	J U A S 会員/ITC : 33,000円 一般 : 42,000円 (1名様あたり 消費税込み、テキスト込み) 【受講権利枚数1枚】
会場	一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会 (ユニゾ堀留町二丁目ビル2階)
対象	プロジェクトマネージャー、プロジェクトマネージャーの上級を目指す方、IT企画の方など 中級
開催形式	講義、グループ演習
定員	25名
取得ポイント	※PMP資格取得者の方へPDU取得修了書、これからPMP資格を目指す方には、「受講証明書」を発行いたします。7PDU取得 (スキルエリア: 戦略&ビジネス) ※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。(2時間1ポイント)
ITCA認定番号	ITCC-CPJU9123
ITCA認定時間	7

主な内容

成熟した投資価値の最適化を実施している企業は、そうでない企業に比べ、プロジェクトの目標を実現する確率は1.6倍、プロジェクトにおいて目標ROIを達成する確率は3倍である（ボストンコンサルティンググループの調査結果（2016年）より）と報告されています。

これからのIT部門は、競争力のある差別化システムを作るため、「QCD、SLAの達成」から、企業が継続して成長していくために立てられた「組織戦略と価値創造達成」に更に視点をあげ、どう実現すべきか戦術が問われています。そして更に、ビジネス戦略に沿ったIT戦略へのIT投資が、企業に更には社会・市場へどのような貢献・変化の影響を与えていくか、測定し明示することが求められています。

IT組織の現場で良く聞かれる話は、「皆が、残業をして良いことをやっているのは分かるが、ITの成果や変化が見えない」「自分達の活動（プロジェクト、サービス、ソリューション）が生み出した企業への貢献、市場への変化（インパクト）を説明できない」です。多くのIT組織が、「ビジネス戦略からIT戦略へのリンケージと成果・評価が見えない」「自分達のIT組織は何を達成しようとしているのか?」「活動の成功とはどのように定義、測定されるのか?」という問いに十分に答えられていません。

このセミナーでは、まず、提示されたビジョン・ミッション、戦略目標を解釈した上で、活動（プロジェクト、サービス、ソリューション）から生み出される成果、インパクトの関係性の説明、及び、測定指標の提示方法までを、枠組み（フレームワーク）を用いて、作成する方法を学びます。また、その価値提案を経営に説明する方法を習得して頂きます。また、参加者とのグループ演習を通し、より理解を深めていただける構成になっています。

「IT組織の活動（プロジェクト、サービス、ソリューション）の成功とはどのように定義、測定されるのか?」「どうしたら、活動を止められるのか?」などプロジェクトマネージャー、その上級を目指す方、IT企画・開発・保守・運用の改革担当の方など必見の講座です。ぜひ、ご参加ご検討ください。

<過去参加者の声>

- ・経営に対する説明方法、フレームワークを学べ、非常に良い題材で実践的な内容だった。（製造業）
- ・実際にプロジェクトを決行するか、撤退するかの判断をすべき立場にあり、理論的で理解が深まった。（建設）
- ・事業環境が厳しい中、これまでのマインドのままではダメであるという考えたと、何をすべきか刺激をうけた（製造業）
- ・ワークショップを通じて理解が深まる仕組みになっており、実務に即役に立つ。（製薬）
- ・難しいテーマにもかかわらず、講師の説明が分りやすかった。（IT系）

プログラム

本セミナーで取り上げる事項

1章. 社会を取り巻く環境の変化

- (1) CSVは、新たなイノベーションと捉える
- (2) 社会的価値 VS 経済的価値
- (3) ソーシャル・インパクト評価の重要性
- (4) IT投資要求に対する経営の不満
- (5) 現状のQCD、SLAではビジネス貢献は測れない

2章. 投資要求に合った価値連鎖の説明

- (1) 投資要求に対する説明に関する現状認識
- (2) 企業におけるインパクト測定の狙い
- (3) インパクト創造サイクル
- (4) インパクト測定計画作成手順
- (5) インパクト測定計画 事例紹介

<演習1>

3章. インパクト測定計画を用いて、価値創出を説明する

- (1) 主要なインパクトを特定する
- (2) 一次インパクトを洗い出す
- (3) 二次インパクトを洗い出す
- (4) ベネフィットマップを完成させる
- (5) 測定データ収集計画を作成する
- (6) 経営者に、価値提案を説明する

4章. 選択と集中、投資価値の最適化方法を体得する

- (1) ポートフォリオの基本的な考え方
 - (2) 様々な優先順位付け方法の紹介
- <演習2>
プロジェクトの優先順位付けの根拠を論理的に説明する
- <演習3>
プロジェクト撤退の理由をステークホルダーに論理的に説明する

5章. ITポートフォリオ事例紹介

6章. ポートフォリオマネジメント（フレームワーク）の組織適応は変革が伴う

<1章>

- ・CSRからCSVへ
- ・企業が、社会的価値を追求する事の意義
- ・ソーシャル・インパクトとは？
- ・経済産業省の報告から日本の現実を読み解く
- ・46.9%の経営者は、IT投資に不満である
- ・経営上層部からの本質的な要請を理解する

<2章>

- ・価値ロジック検証の以下の要素の違いを理解
 - 1) インプット（投入）
 - 2) 活動（プロジェクト、サービス）
 - 3) アクトプット（結果）
 - 4) アウトカム（成果）
 - 5) インパクト
- ・ベネフィット
- ・ベネフィットマネジメント
- ・成功は、どのように測定するのか？
- ・インパクトを大きくするには、どうすれば良いのか？

<3、4章>

- ・投資価値最適化の重要性を理解
- ・ステークホルダーにプロジェクト優先順位付けの根拠を示す
- ・合理的手法のメリットと限界を理解する
- ・多くの選択肢にどう応えるか？
- ・投資委員会のメンバーと、経営的視点を体得する
- ・合理的手法を活用する価値を見出す
- ・何故、日本のプロジェクトは、中止が出来ないのか？
- ・徹底、中止の意思決定の考慮事項とは？

<5章>

- ・IT投資委員会を新設
- ・ITポートフォリオの実践、その他

<6章>

- ・何故、変革は失敗するのか？
- ・ポートフォリオマネジメントの推進にどう立ち向かうか？